イリノイ州クインシーの ヘンドリックス家

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老による，ヘンドリックス家についての話を読みます。

「ミズーリ州でのひどい敵対行為により，預言者はリバティーの監獄に幽閉され，何千人もの末日聖徒が家を追われました。そのさなか，ドルシラ・ヘンドリックス姉妹と，クルックト川の戦いで教会の敵から撃たれて不自由な体になった夫のジェームズが，子供たちを伴ってイリノイ州クインシーに逃れ，急場しのぎの穴小屋を作り，その忌まわしい年の春をそこで過ごしました。

しかし，2 週間とたたないうちにヘンドリックス家の食糧は底を突き，スプーン 1 杯の砂糖と茶わん 1 杯のコーンミールを残すのみとなりました。家族全員がまさに飢餓状態を迎えようとしていたのです。……ドルシラはその残された粉を練り，できるだけ引き伸ばして，ジェームズと子供たちのために調理しました。飢えた一家がそのわずかばかりの食事を終えた後，ドルシラは食器を全部洗い，穴小屋をきれいにして，死が訪れるのを待ちました。

ところが，それから程なくして，荷車の音が聞こえてきました。彼女が立ち上がって見ると，そこには隣に住んでいたルーベン・オールレッドが立っていました。ヘンドリックス家はもう食べるものがないのではないかと思い，町に行く途中，穀物をひいて粉にしたものを袋に詰め，ヘンドリックス家に持って来た，とのことでした。

それからしばらくすると，今度はアレクサンダー・ウィリアムズが穀物を 2 袋肩に担いでやって来ました。忙しく働いていたさなか，彼は御霊のささやきを受けたのです。こう言いました。『ヘンドリックス兄弟の家族が食べる物がなくて苦しんでいるって御霊が教えるんです。ですから仕事を放って〔走って〕やって来ました。』〔Drusilla Doris Hendricks, “Historical Sketch of James Hendricks and Drusilla Doris Hendricks,” Church Archives, Salt Lake City, 14 – 15〕」（ジェフリー・R・ホランド「一握りの粉と少しの油」『聖徒の道』 1996 年 7 月号，37 – 38）

- この話からどのような原則を学ぶことができるでしょうか。

トーマス・S・モンソン大管長（1927 – 2018 年）による次の文を読みます。

「人生で最も麗しい経験は，御霊の導きを感じてそれに従って行動し，それがだれかの祈りの答えであったり，だれかの必要を満たしたりしたことが後で分かるという経験です。」（トーマス・S・モンソン，ウィリアム・R・ワーカー「預言者に従う」『リアホナ』 2014 年 4 月号，24 で引用）

- 聖霊の促しに従って行動し，困っている人を助けるよう導かれた経験はありますか。